

## 令和5年度 第3回 富谷市協働のまちづくり推進審議会 会議録

日 時：令和5年10月30日（月） 10時00分～11時10分

場 所：富谷市学校給食センター 研修室

参加者：富谷市協働のまちづくり推進審議会 出席委員10名 欠席委員0名

：富谷市 1名

：事務局 5名

### 1 開会（司会：市民協働課 課長）

### 2 会長挨拶

皆様お忙しいところ協働のまちづくり推進審議会にご出席いただき、ありがとうございます。

事務局に県内外いろいろな自治体を参考にたたき台をつくってもらって、前回はそれを基に議論しましたが、委員の皆さんの中で少し違和感があるということで、富谷ならではの文言を入れましょうということで意見が一致しました。皆さんには言いたいことはとにかく発言していただいて、今回はそれを基に、また、シンプルなものに改めて事務局には資料を作っていただきましたが、今日はこれに内容を付け足していく会になるかと思えます。最終的には、本当に有意義な支援方針を提案していければと思いますので、今日も忌憚のない意見をよろしく願いいたします。

### 3 市長挨拶

皆さんおはようございます。本日は令和5年度第3回富谷市協働のまちづくり推進審議会ということで、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。また、今日、この審議会の委員としてご出席いただいている皆さんにおかれましては、日頃からそれぞれのお立場で富谷市のあらゆる場面でご活躍をいただいている方々ばかりでございます。改めて日頃のご尽力に感謝申し上げます。

今、佐々木会長からお話がありましたように、前回は皆さんにいろいろなご意見を率直にいただくことによって、富谷らしさを前面に出していける方向になってきていると感じておりまして、本当に感謝申し上げます。そういった地域性なり富谷らしさというのは凄く大事にしていきたいと思いますし、計画というのはどう実践につなげていくかということが一番大事だと思いますので、今回も忌憚のないご意見を引き続きいただければと思っております。

今年も富谷市は自治体評価ランキング等で高い評価いただきまして、「富谷の強みは何ですか」と聞かれることがあります。私は最近、「市民力」という言葉を使わせていただいております。行政だけでは限られた基本的なところしかできませんが、それを更に、今日ここにいらっしゃる皆さんをはじめ、様々な分野で市民の皆さんが活躍していただくことで、今の富谷の元気を作り、支えていただいていると思っております。そういった意味では、市民の皆さんが主体的に活動するにあたって、行政側がいかに効果的なサポートをできる環境をつくれるかということが大事だと思っておりますので、委員の皆さんからいただく支援方針案を踏まえて、しっかりと役割を明確にし、更に富谷の力にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 4 審議事項

##### 市民の公益的な活動への支援方針について

(佐々木会長)

それでは、審議に入る前に委員の皆様にお諮りいたします。会議の傍聴及び富谷市情報公開条例に基づく開示請求があった場合の本審議会と会議の資料及び会議録の公開につきまして、ご了解をいただけますでしょうか。

※「異議なし」の声あり

それでは委員の皆様からご了解をいただきましたので、会議の傍聴及び会議録等の開示請求があった場合は公開することといたします。ただし、個人に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき、不開示とすることを申し添えます。

それでは本日の傍聴人について、事務局から報告をお願いします。

(事務局 坂爪課長)

傍聴の申し込みはございません。

(佐々木会長)

それでは審議会の途中で傍聴希望があった場合、傍聴を許可することといたします。

また、本審議会の会議資料及び会議録につきましては、委員皆様に内容を確認いただきました後に公開させていただきますので、ご了承願います。

なお、個人に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき不開示とすることを申し添えます。

それでは審議に入ります。

今日は公益的な活動への支援ということについて、議題としていきたいと思えます。

先程もお話ししましたが、前回の議論からかなりシンプルな資料にさせていただきました。前回皆さんから出た意見を拾い上げて、また増田委員へご相談しに行ったりもしていただいて、かなり読みやすくしていただいたと思えます。

それでは事務局より資料の説明をお願いします。

(事務局 瀧田課長補佐)

それではわたくしから資料の内容について説明申し上げます。

これまで本協働のまちづくり推進審議会においては、令和2年度に協働ガイドライン「わくわく つながる わたしたちのまちづくり」を策定し、令和3年度・4年度には「公益的な活動への支援に関する提言」を答申としていただきました。それらを踏まえて、市民の公益的な活動への具体的な支援として今年度、第1回、第2回の審議会において委員の皆さまよりご意見をいただき、整理したものが資料1、体系別にまとめたものが資料2となっております。資料1と資料2を併せて説明させていただきます。

今回、こういった形に変更した理由といたしましては、前回の審議会で提出申し上げました支援について、市の目線で作成した支援という構成になっておりましたが、審議会において市と市民が作り上げていくというニュアンスで、事柄によっては市民が主体的に実施していくということも踏まえ、各々の立場で出来ることという形で作りかえるとともに、2回目の審議会ののち、委員の皆様から聞き取りやメールなどによりいただいたご意見を基に調製いたしました。

前段のリード部分「それぞれの地域が住みたい魅力ある『わがまち』とするには、世代や立場を超えた多様な住民同士が共に力を合わせ、助け合いながら活動を行っていくことが重要であり、実現に向けて以下に示す支援が必要です。支援もまさに市民協働で、市ができること、市民の力でできることをコラボレーションさせて、富谷市ならではのものを創造していきます。」としております部分につきましては、昨年度提言をいただきました「公益的な活動への支援に関する提言」における「市民の公益的な活動について」の目指すべき活動の姿として「市民の公益的な活動の主たる目的は、自分たちの手で、住みたい魅力ある地域を作っていくこと」と表現している部分、令和2年度に策定した「わくわく つながる わたしたちのまちづくり ―富谷の協働ガイドライン―」における「1. ガイドラインの目的」「(2) 富谷が目指す協働のまちづくり」において表現している部分、第2回審議会において佐々木会長よりいただいたご意見を基に構成いたしました。

次に「整備を期待する事項」といたしまして、「地域のために活動している個人・団体の登録制度、活動の様子や活動している人の声、活動に役立つ情報の発信、施設の活用や設備等の利用ガイドの整備」と3つ項目立てを行い、それぞれの事項について、市または市民、市と市民がそれぞれに、または協働してできることを区分して標記しております。

はじめに「市ができること」といたしまして、「活動している個人・団体の登録制度」、「身近な施設の有効活用の為の利用ガイドの整備」、「活動に便利な設備の設置」、「助成金や活動支援制度の情報提供」を資料2のとおり提言や委員の意見を基に掲げております。

次に「市民ができること」といたしまして、「地域をさらに良くしたい人、知識や経験を活かしサポートする人などが力を合わせることによる地域力の向上」、「活動する人と人とが関わり合うことで「ロコミ」により伝えていく情報発信」を項目として掲げております。

最後に「市と市民がそれぞれに、または協働してできること」といたしまして、「講演会やイベントの情報提供」、「広報、ホームページ、SNS等による情報発信」、「ちらしなどによる活動紹介や入会募集案内の発信」、「楽しくつながり広がる「輪づくり」の交流の機会の創出」を項目として掲げております。

内容や見せ方、表現の仕方などにつきまして、様々な視点からご意見を頂戴できればと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

私からの説明は以上となります。

### (佐々木会長)

前回文量はあったんですが、ポイントが絞られなかったというところもあり、いろいろな自治体のものを参考に集約して作っていただいたかと思うのですが、富谷にそれをどう置き換えていくかというところが課題となりました。本当に事務局には頑張っていただいたきましたし、やはりこうして事務局と地域で一緒に作業していくことが市民力だと思いますので、こういう作業を大事にしていきたいと思っております。

皆さんから出していただいた意見を基に、ユニークな形で作り上げていきますので、今日はまた更にそれぞれの立場から、こういうことがあったら良いんじゃないかということをも具体的に話していただく機会になればと思っております。

最初に私の方から、資料1の1行目に「『わがまち』とするには」というところがあるんですが、「公益的な活動への支援に関する提言」の中で、富谷の市民協働とは何か、皆で作った定義があるんですね。「それを実現するには」ということで変えた方が良いのではないかと思います。

あと真ん中の太字のところ、「上記についてそれぞれの実施主体」ということで「市または市民、市と市民がそれぞれに、または協働して」というところなんですが、「協働して」の前に、「多様なセクターが」を主語として入れると良いかと思います。私もいろいろ

なところで協働について講演しているんですが、協働の定義というのはやはり変わってきていまして、1990年代に「協働」が入ってきて、最初は市（自治体職員）と地域住民だったんですが、2012年以降は多様なセクターの協働と、定義が変わってきています。全国的に市と市民だけではなく多様なセクターをどう協働させるかということがポイントになっていますので、それを付け加えて良いと思います。ただ「多様なセクター」だけですと逆に具体性がないという指摘もありますので、こういった書き方で良いと思います。

富谷は最近、とみふらやとみやど、荷宿ができたりしていますし、本来はそれぞれ機能は違いますが、公民館も含め多くあるので、それをどう利用するかということが、ハード面については議論されてきたと思います。今日もソフト面中心の議論になるとと思いますが、それぞれ皆さんからご意見をいただいて、ブラッシュアップしていきたいと思います。

### （北野澤委員）

今回の支援案を含めて、ガイドラインと提言の3つの関わりについてなんですけれど、最初に作った協働のガイドラインは大まかなところを、次に支援に関する提言はそこから少し絞ったかたち、そして今回は富谷として、より具体的な部分でどういうことをやっているかという部分を示していく必要があるんだと思います。なのでもう少し具体的にという部分があっても良いのかなと。

あと、「市ができること」と「市民ができること」は、以前の審議会の中で市民ができることを先に持ってきて、それを市がどうカバーできるかという書き方にした方がと話をしていたかと思います。なのでこの部分は順番を逆にした方が良いのかなと思います。

### （佐々木会長）

行政側としては、なるべく地域の皆さんに負担にならないように、自分たちでと考えてしまいがちなんですよね。ですが協働はやはりバランスだと思いますので、そういう意味では市民ができること、多様なセクターが協働してできること、それでもできないことを市がサポートするという流れが良いかと思います。

あと具体性の話もありましたが、シニアの活躍なども議論に出ていたと思いますので、その辺からより具体的な文言を入れて良いと私は思っています。

### （増田委員）

全体を通して読んで、とても頭に入りやすいものになったと思いました。

今の北野澤委員の意見を聞いて、それこそ富谷市ならではというところでも、市民ができることを先に持ってくるというのはとても良いと思います。また、「市ができること」ではなく、市民がやることに市がどう支援するか、サポートするかのような表現に変えても良いのかと思います。

あと、「整備を期待する事項」という表現に、読んだときに引っかかりを感じていて、誰が整備を期待するのかが漠然としているので、「整備が期待される事項」とか、市民ができることを市がどうサポートするかという流れにするにしても、期待という言葉を使わずに「整備の実現を目指すこと」とするとか、この表現を変えると良いのかなと思いました。

### （佐々木会長）

どうしても行政側、事務局の方で市民に代わって書いてもらっている部分もありますので、その辺の文言はまた最終調整するかと思いますけれども、あくまでも審議会からの発出文書なので、その目線は整えていきたいと思います。

あと「整備の実現を目指すこと」が下に出てくるものを総括して3つ挙げられているんで

すが、ここに配置するとこれだけが独り歩きしてしまいかねないので、レイアウトも考えましょう。

#### (日諸委員)

自分では納得しながら読んでいたのですが、おふたりの意見を伺って、やはり市民ができること、それから市ができることと、順序を変えただけでこの協働のまちづくりのアプローチが変わってくるなど気付きました。そのように入れ替えた方が良いと思います。

あと、シニアの活動ということで、この前北野澤委員がシルバーの入会説明会に来てくださって、更に理解を深めていただいたので、私もこのシニアの活動の方で少しお力になればと思っておりました。

#### (佐々木会長)

北野澤委員から、より具体的にわかりやすくした方がという意見が出ましたが、日諸委員の意見を聞いていて、例えば市民とか多様なセクターがつながっていったとき、市の位置は土台の部分だと思うんですね。つながるための土台は行政のサポートだと思いますので。今回そういった絵を描くと良いのかなと思って聞いておりました。

#### (佐藤政悦委員)

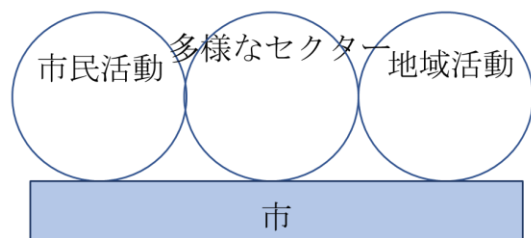
私は、平岡委員と同じく町内会長ということで、審議会に出させていただいておりますが、私が感じているところとしては、旧地区の方が何をしても浸透性が弱く、協力もいまいちという部分があります。そういった中で、旧地区の方々にどのように伝えて、協力をいただけるようにしていくかということを考えていかなければと思っています。もっと皆で話して、聞こうやと、そういった働きかけを行って行って。そういう風に思っている方もいるんですけど、中々声に出して言えないという部分もありますので。そういう声を拾いながらやっていくことが出来れば、旧地区でもそういった活動や、いろんな思いなりという部分ができるのかなと思います。そういった部分から、どうも少し離れているような気がしますので、もっとこう一緒にやれるような体制づくりを、併せてやっていけたらなと思っています。

#### (佐々木会長)

1回目の審議会でもこの部分で意見をいただいて、それを基に「令和5年度第1回富谷市市民活動交流会」と題して富谷市内での都市農村交流を行ったところですが、やはりその部分というのはこれまであまり触れられてこなかったところかと思っています。市民活動と言うとより外に外に広げるような傾向もありますけれど、中の交流も重要だというのは本当に実際にやってみてその通りでしたので、何かそういう文言も入れていきたいと思っています。

先程私がざっくりとしたことを言って皆さん戸惑っていると思うので、簡単に描いておきたいと思っています。皆さんの議論の方向の確認なのですが、今のお話ですと、市民活動があって、多様なセクターの皆さんが今、とみやどやとみふら等も含め様々な場で連携してきていて、今佐藤政悦委員が仰ったような地域の活動があって。これらがどうわくわくしてつながっていくかということだと思うのですが、今のような話ですと、今議論しているような支援、土台があるようなイメージなんだと思います。支援する目的というのは、やはりつなげていくということなんだと思うんですね。それをデザインするとき、先程市長も市民力というキーワードを挙げられていましたが、そこにはこの地域活動も入ったの話だと思いますが、それが連携することによって地域力を増すのだと思いますので、今4名の委員の意見を聞いたところですが、こんな感じなのかなと思って描かせていただきました。

### 【注釈】



佐々木会長板書  
協働イメージ

### （平岡委員）

私も佐藤政悦委員と一緒に、町内会というところから始まるんですけど、何事も全然関心がなければ参加につながらないんですよね。まず市民の方たちに、参加までには至らなくても関心を持ってもらって、もっと市のことを知っていただく。そしてそこから市以外へ発信するのなら分かるんですが、全然市民の中で知られていないことってたくさんあると思うんです。佐藤政悦委員と同じなんですけど、皆にもっと知ってもらいたいというところが一番です。

あと皆さんから出ていますけれども、「市民ができること」の次に「市ができること」という順番にした方が。市に何を期待できるかというところが一番関心を持つ部分だと思うので、最後に持ってきた方が良いかと思います。

### （佐々木会長）

関心を持たせて、そこから引き付けてでないとなんか進まない、一番重要な部分かと思えます。発信というところになってきますが、そこは行政のできること、やるべきことなんだと思うんですよね。

今年度、町内会については、富谷市で事例集を作ることになりましたので、今事務局の方ではそちらも進めてもらっていますが、やはりツールを作っていくとか、ウェブも含め、地域の団体が自分たちのことを自分たちで発信するのは結構難しいところもある。この審議会でもずっと言ってきましたが、事例集といったものは継続してやっていく必要があると思えますし、今年度町内会の事例集づくりが進んでいますので、そういうことも書き込んでいったら良いかと思えます。

ということで、発信の部分はこの土台のところ、市が支援すべきことになってくると思えますので、増田委員からも意見が挙がりましたが、「市ができること」「市民ができること」の部分は文言から変えていきたいんですよね。良い言葉を考えていきたいと思えます。

### （佐藤怜美委員）

増田委員が仰ったように、前回の資料と比べて、非常に簡潔でわかりやすくなったという印象がありました。

あと、前回は「富谷市の実施する具体的な支援について（案）」というタイトルだったと思うのですが、今回のタイトルは入りやすいし、見やすくなっていると思えます。

文言については、前回出たように富谷市らしいとか、ならではというのと、あと「輪づくり」という言葉は前回の審議会が出たものだと思うのですが、そこが盛り込まれていたのも、また柔らかい印象になったなと思えます。

あと先程佐々木会長が話されていた部分で、市と市民だけではなくて、多様なセクターと

いうところでは、社協はそこに入るのかなと思います。

それと「整備を期待する事項」の中に、「地域のために活動している個人・団体の登録制度」とありますが、社協のボランティアセンターで既に行っているのでも、市で一から整備せずとも社協と協働して、既存のものを生かしても良いのかなと思いました。

#### (佐々木会長)

今具体的に「整備を期待する事項」のところでも1個意見が出てきたわけですが、多分、登録制度というよりはネットワークの制度なんですよ。登録制度自体は社協でも市でも既にあると思うのですが、とはいえそれってペーパーで終わってるわけですよ。そういうものをどういう風にネットワークしてつなげるかということだと思います。

#### (佐伯委員)

前回の審議会の資料2を読み返していたのですが、(1)から(8)まで項目立てされている順番を入れ替えた方が良いのではないかと考えていました。「(3)情報収集」、佐藤怜美委員が仰っていたような、既に登録されている団体や個人の活動現場を取材して活動内容を把握したり情報収集するようなことを一番最初にして、次に「(4)人材の発掘・育成・活用」、広報やSNSを通じて、手助けを必要としている方や、これから活動を始めたい方に向けての情報発信などをしていくというような感じで。増田委員が仰ったように、市民ができることから始まって、市ができることへの順にこの(1)から(8)までの順番を変えると良いのかなと感じていました。そして最後に「(9)情報共有」としていただいて、ステップアップとして人材の育成とか講座・イベントとか、そういったところにつながっていくと良いのかなと思います。

#### (佐々木会長)

前回の資料を読み解いていただきまして、市が促進すべきところは情報発信、あと情報の発掘なのだと思います。

やはり場所ができると、結局イベントありきになってしまうんですよ。イベントをたくさんやるんですけど、人が集まらないから手当たり次第に知ってる人をかき集めて、毎回同じメンバーというようなことになってしまうので。どこも同じようにイベント疲れしていたところに新型コロナウイルスの流行があって、1回リセットしているところだと思うのですが、そろそろイベントも復活してくるので、適切にやっていくために富谷で今、このタイミングが必要なかなと思って皆さんの議論を聞いていました。

市ができること、この土台の部分のメインになってくると思いますので、そこは強調して書いていきましょう。

#### (村上委員)

前回の審議会からこの資料になって、大きく変わったなと感じています。見やすくなりましたし、前回の資料もとても良い内容があったので、多分そこをまとめてくれたのかなと思いますが、もう既に活動を始めている方もいるだろうし、これからという方々のための窓口が市民協働課であるならば、どういった発信、支援をしてくれるのかを皆さん分かっていないのかなというところ。分かっていない人達がたくさんいるし、そこを作っただけなのであれば、市民は活動しやすくなるのかなと思っていました。

この前、佐藤政悦委員の農園で開催された市民活動交流会みたいなものには、私初めて参加したんですけど、市民協働課主催で開催されていて、まさに交流の場にもなり、つながりづくりの場になっていました。私も、知らなかった地域の人たちが参加者の中に沢山いた

んですけれども、そこでつながって今もやりとりをしている人が2人いて、これから何かやっていきましようかという話まで今進んでいて。そういうことが自然に行われたというのは、ああいった場があったからで、実際に参加して輪作りってこういうことなんだろうなという風に感じました。そういうことを知らない人たちがまだまだいるというところも、市民協働課の窓口の開け方というか、佐々木会長の図でいくと下の部分を、市民のみんなの意見を吸い上げて作っていただくのと凄くやりやすいし、富谷らしいものになっていくのかなと思っていました。

事例集を作るということも凄く分かりやすい1つの発信方法になるだろうし、そういう風にして工夫しつつ変わってきているのが、実際に関わってみて感じたところです。

### (佐々木会長)

まさに今話していただいたところなんだと思うんですよね。あえてこの丸をくっつけて描いたんですけど、ここを分断されたものじゃなくて、こうくっつけていくということだと思います。

どうしても、これまでここが分断されているということが、行政側としても市民協働が中々難しい部分だったんですよね。ただ、今地域も、市民活動側も理解が進んでいるので、ここは距離は空けないようにきちんとつなぐ。これまでまず市で考えて、これどうですかという流れだったものを、皆さんが今地域でどんな活動をしているのか吸収して支援をつないでいく、必要なものを発信していくというものにきちんと明文化したら良いのではないかと思います。役場の会議室で統計データを基に全部決めるのではなくて、地域に出向いて声を聞いてそれを基に進めていくということなんだと思います。今年から市民活動セミナーも、市役所の会議室に来てもらって、何か凄く人の話を聞くというスタイルから、活動現場に出向いてフィールドワークをする形式に変えていきましたし。

第1回目は都市農村交流をテーマに、団地部の皆さんが農村地域を見に行くかたちにしまして。第2回目は、平岡委員からも以前の審議会でも挙げていただきましたが、団地部の方とはとみやどとか旧地区を知らないという意見を基に、団地部の皆さんにとみやどの辺りを案内する企画を今考えてもらっています。外から凄く良いものを持ってきて聞くのも、たまには大事なんですけれど、地域の中で良いことをやっている人もいるので、それを見せてもらうのが段々浸透してきているかと思っています。

今町内会の方では事例集を作っていますが、市民活動の方でもいずれは。予算の問題にはなるとは思いますけれどそれは土台になりますので、そういう必要なものを収集して作っていく流れにしていければと思います。

### (北野澤委員)

今の佐々木会長の話に関連して、増田委員と私も活動してる「おせっかいおばちゃんクラブ」という団体があるんですけれど、そこのメンバーに福島県の浪江町から参加してる人がいます。浪江では「ねっばす隊」と言っていて、市民活動とかいろんな地域活動をしている人たちをねっばしていく、くっつけていく活動をしている団体があるんです。そのメンバーには、役場の人もいれば、町内会の人も、いろんな人がサポートで来てくれて。浪江は、震災前は2万1千人くらいいた人口が今は1万5千人くらいというところなので、いろんなかたちで活動がしていけるということで。なので、町の役場の活動では対応しきれない部分を、ボランティアである「ねっばす隊」がいろんなかたちでやっていくという事例がありましたので、参考までにご紹介させていただきます。



### (佐々木会長)

中間支援ってやはり重たくて難しいですよ。それをあえて「ねっばす」という言葉を使って、成功事例だと思います。

特に浪江は、東日本大震災の復興の過程で、協働のまちづくりが上手くいった事例として取り上げられているんですよ。ただそれは決して震災前からそうだったわけではなくて、震災前に町長が代わったとき、その新町長が協働をやる宣言したんです。ただ2009年とかの話なので町の人も誰も協働って分からなくて、福島県庁に詳しい人を出して欲しいと頼んで、副町長に入ってもらったんですよ。その後震災があって皆避難したとき、温泉地とかで初めてその協働が活きたんですよ。その時担当していた小林さんという方に私も話を聞きましたけども、やっぱりそれは訓練だと、それで機能したということでした。そうして、子どもたちの計画も取り入れて、避難しながらも計画を住民参加で作り上げたという事例がありましたけれども、多分その知見を基に、ずっとそれを続けているんですよ。

その、「おせっかいおばちゃんクラブ」というのは富谷ですか。浪江の「ねっばす隊」みたいな感じで。

### (北野澤委員)

そうです。東北学院大学の本間先生のホームページから始まった活動なんです。

### (佐々木会長)

中間支援的な存在を、例えば行政以外の外に出してやる場合は、何か少しユニークな発想でやった方が良くということですよ。行政ではできない部分だと思いますので、そういう何となく親しみやすいのを、富谷でも富谷らしいネーミングで作って。

ありがとうございます。重要な意見でした。

### (曾根委員)

まず全体的にはかなり変わって、とても読みやすく、分かりやすくなったのでよかったですと思っています。

皆さんの意見の中で、市民の関心が重要というのはまさにその通りだなと思っています。町内会であろうが市民活動だろうが、まず関心を持ってもらうところがスタートなんですけれど、じゃあどうしたら関心を持ってもらえるかと言ったら、やはりその情報をまず知らないとか関心を持ってないじゃないですか。そこかなと思っています。

私はとみぷらでいろんなイベント等に関わっていますが、イベント自体を知らなかったとか、イベントの中でも具体的に言うと、この前街道まつりで、SNSのフォローでブルーリッ娘ちゃんグッズをプレゼントするコーナーがあったんですけど、それを皆知らなくて。知ってたら行ったのに、みたいな声も結構聞かれたんですよ。なのでその辺って、頑張っても知らなくても知らなければ意味がないということを凄く日々感じているところです。

その中で、富谷市の公式ラインは凄く良いなと思っています。もちろん見ていない方もまだまだいらっしやると思うんですけど、少なくとも、私に関わっている富谷塾では富谷市の公式LINEを見て興味を持って、来てくださってる方が多いんじゃないかという印象を受けています。

なので今回ここに入れるかどうかは別として、情報発信としてはもっと活用していただければよいのかなと思っています。

資料の中で気になったところで言うと、資料2「地域をさらに良くしたい人、知識や経験を生かしてサポートする人など」と書いてあるんですが、これだけだとハードルが高いなと

いう印象なんです。もっと気楽に、市民誰でもできることはあるし、良くしたいまでいなくても興味関心を持っているとか、何か楽しいことをしたいみたいな。具体的には分からないですけど、そういったハードルを低くした文言で「何々したい人」というのを1個入れても良いのかなと感じました。

### (佐々木会長)

そうですね。これまで作ってきたガイドライン、提言との重複をチェックしたら良いかと思えます。北野澤委員からも意見がありました。なるべく具体的な方が良いと思えますので。「できること」という文言も変えつつ、そのぼやとした表現の部分はこれまでのガイドラインや提言の中に入っていると思うので、重複しているところは抜いて、ここには何か具体的なものをなるべく書き込んでいくことで、整理できるのかなと思いました。

逆に今、曾根委員より「何となく来たい人」とか、「何となくやってみたい人」という表現にという意見も出ましたが、全部そういった書き方にすると、市ができることもぼんやりしてしまうので、ある程度解像度を上げて良いと思えます。

私自身も何ら答えを持たないで議論しているんですけども、一つの整理の方向性としては、これまで作ってきたガイドライン、提言との整合性をもう1度取ってもらった方が良いかと思えます。富谷市らしさということを強調しつつも、今回の支援案はガイドライン、提言に続いてより具体的になってくるものだと思いますので、そのようにしていきたいと思えます。

また前回の資料も、特に市のサポートの部分で良い点が多くありましたので、それももう1度精査して盛り込んでいきましょう。膨らましていく段階というよりは、最終のまとめに入っていると思えますが、そういった意味では今回の資料は文量的にも少ない感じがして、一枚紙が裏表目一杯くらいになるのが良いかと思いました。

他には図があると具体的になってくるので、今回入れても良いのではないかと思えます。先程漠然としたものを描きましたけども、例えば市がやるべきことを何層かのフローみたいに描いても良いと思えます。私もそこは後でまた一緒に考えたいと思えます。

前回皆さんに熱く議論してもらって、もう皆さん道筋が見えてきているかなと思いたしたので、今日はポイントを押さえたコメントをいただいた感じがしています。加えて何か、皆さんの方でお話したい内容等、他にございますでしょうか。

### (増田委員)

今佐々木会長が仰ったようにこれは土台で、皆さんの意見を入れてまとめていこうという流れだと思うので、まだ一杯にはなっていないと思うのですが、北野澤委員の意見から始まったように、「市民ができること」、ここの表現を変えることと、あと内容を厚くした方が良いと思えます。平岡委員のお話にもあったように、自分の住んでいるまちを、まずはお互い関心を持てるものにするということが大事だと思って。そしてその後にシルバーの活躍等、生涯にわたって何かしら、自分がこのまちの一員であるという自覚を持って生きられるようにする、のような文言も入れるとか。活動というよりも、市民一人一人が生涯このまちで過ごすとき、どうあったら良いのかというようなことを盛り込んでいって、そしてそのために市ができることという流れにすると良いのかなと思えます。この「市民ができること」というところを、誰もが読んで順番的に分かりやすいような、明確なものにして、また内容を厚くするということがこの支援案を作る上で大事なかと、皆さんの意見を聞いていてそのように思いました。

あと登録制度の部分で、登録制度というよりも、活動内容の把握みたいなのが、「市にできること」、やっていたきたいこととして大事になるのかなと思っています。把握し

てないと、市民から相談を受けたときに、こういう登録制度がありますというだけではアドバイスできないものだと思うので。把握というところが大事なのかなと感じました。

**(佐々木会長)**

ありがとうございます。

審議会の今後のスケジュールはどのようになっていましたでしょうか。

**(事務局 瀧田課長補佐)**

次回、4回目は12月18日を開催予定としており、事前に皆様にご都合を伺っております。4回目、その後にパブコメを上げ5回目という流れにしておりますが、委員の任期については皆様に2年間をお願いしておりますので、来年度通してでも良いかと思っております。

**(佐々木会長)**

そうですね、焦っても仕方がないものなので。私の方で今何となく感じていたのは、今日、時間はあるんですが、やはりこのたたき台をもう1度、順番の入れ替えとか図を入れて整理して、それを基に、「市民ができること」等をもっと入れていくという手順を踏んでいった方が良いと思います。パブコメは年度内にしなくてはいけないんでしたでしょうか。

**(事務局 坂爪課長)**

今年度中ということで話をしていたところではありますが、もし審議会側から、もっと良いものを作り込んでいくためには時間的なものが必要だということになってくれば、それについては確認が必要になってくるかと思えます。

**(佐々木会長)**

その辺を確認していただきつつ、今これから、市民にできることを皆で出してもらおうというのでも良いアイデアが出ないと思うので。できれば今言ったような感じで、特に順番を入れ変えるというのは結構大きいことなので、フレームを作ってもらったり、図を入れてもらったりして、次回12月18日にまた、今度は具体性の高いものを入れていく作業をして、それを基にもう一度作り込んで確認をしてからパブコメをやった方が、私は良いと思います。

**(事務局 坂爪課長)**

分かりました。今日皆さんからお話を伺っていて、先生のコメントですとか、皆さんから出されたご意見を組み合わせ、集約されて良い方向につながってきていると感じております。先生の仰る通り、そういった流れに乗って進めていければ良いのかなと伺っておりました。

**(佐々木会長)**

生煮えのままですとお腹を壊しますので、ちゃんと調理してから出した方が良いかと思えます。

では今のような方向性で、事務局の方でも内部で進めてもらえればと思います。委員の皆様方にはまた宿題になってしまってお手数ですが、順番等入れ替わってきますので、ここにそれぞれの実施主体ができること、この文言も考えますけれど、できることでも取りあえずで構いませんので、こういうものを入れた方が良いというのがありましたら、次回の審議会にお持ちいただければと思っております。

それでは、以上で本日の審議はすべて終了とさせていただきます。本日、委員

の皆様から頂戴した意見を十分に考慮し、具体的な支援策の作成を進めてよろしいでしょうか。

※「異議なし」の声あり

事務局におかれては、本日委員の皆さまから頂戴した意見を十分に考慮し、具体的な支援についてとりまとめていただければと思います。

それでは進行を事務局にお返しします。

**(事務局 坂爪課長)**

佐々木会長、委員の皆様、長時間のご審議ありがとうございました。

5. その他といたしまして事務局から連絡がございます。

**(事務局 瀧田課長補佐)**

本日の審議会の会議録につきまして、内容のご確認を今後お願いすることとなりますのでご承知いただきたいと思ひます。

また、次回第4回審議会につきましては、既に日程調整させていただいておりますとおり、12月18日に開催を予定しておりますが、後日改めて開催の通知を郵送申し上げますのでよろしくお願ひいたします。事務局からの連絡事項は以上となります。

**(事務局 坂爪課長)**

それでは閉会のあいさつを平岡会長職務代理者にお願ひいたします。

**(平岡会長職務代理者)**

本日も皆さんからたくさんのご意見を出していただきました。この審議会が終わればこういった機会はしばらくないと思ひますので、残りの回数が限られてはいるのですが、期間に関係なく、皆さんの意見を聞いていただけるとありがたいと思ひます。

委員の皆さんは本当に富谷市にいろいろなところで関わっている方々で、いろいろなことを知っていらっしゃるので、次回もたくさんのご意見を皆さんで出して良い会にしたいと思ひます。

**(事務局 坂爪課長)**

以上をもちまして、令和5年度第3回富谷市協働のまちづくり推進審議会を終了させていただきます。本日は大変お疲れ様でした。